

# 気候変化から全世界の意識変化へ

環境に優しいサイ（大鎌）シンポジウムおよび勉強会の申込書



日程

2006年6月18日～23日

場所

カナダ・ニューブランズウィック郡、ロアーキントール

## 講演テーマ

「生物の多様性とサイ（大鎌）ー自然保護のための半野生草地作りとその刈り取り」

講師

デンマーク自然保護生物学者

Henrik Jorgensen (ヘンリック・ジョージエンシェン)

---

## 講演の概要と議題

- ・気候温暖化と向き合うー「何を、ではどうしたらいいのか？」
- ・栽培上の節約
- ・経済的な草地の維持
- ・小規模農業の将来ー最前線の方法
- ・進歩する国際的サイ（大鎌）関連サービス

## 演習

- ・サイ（大鎌）の準備、研ぎ方、使い方についての二日間の実習（草刈りの基本的な動作となる、簡単な太極拳を取り入れたレッスン）
- ・様々な地形、土壌条件別による草刈り、好みの混合植物草地での実習を含むサイ実習とその他の方法（馬動力草刈り方法、小型刈り込み機、機械草刈り機）との比較検証

## その他の活動と実際のデモンストレーション

- ・実際の天候と経済的条件での干し草作り（ヨーロッパとカナダの伝統的方法に学ぶ）
- ・どうやってわずか2、3種類の手道具と種類に関わらず自然の材木を使って人間工学的なサイのスナス（長い柄）を作るのか
- ・多様な型式の手動草刈り競技（障害物を含んだコースと長時間競技）
- ・団体草刈りパーティーグループによる巨大デザイン作成
- ・おもしろいサイの寸劇

実習コースの講師はスウェーデンのケジール・グスタフソン(Kjell Gustafsson)、デンマークのニールズ・ヨハンソン(Niels Johansson)とヘンリック・ジョージエンシェン(Henrik

Jorgensen)、カナダのピーター・ヴィドオ(Peter Vido)、そしてオーストリアのゲアハルド・ワグナー(Gerhard Wagner)

イベント開催は個人農場で行われ、場所に限りがあるため、前もって個人の参加予約申し込みが必要です。内容予定など、その他のより詳しい情報は、1月中旬頃お知らせできる予定です。当方にお問い合わせの際はそちらの簡単な自己紹介と、特にこのイベントに興味を持った理由についてご説明ください。また、もし寄付の意志がある場合、発表、もしくは内容への助言、協力等があれば下記に連絡してください。

住所 The VidoFamily (ビイドウ・ファミリー)

1636 Kintore Road, Lower Kintore  
New Brunswick, E7H 2L4 Canada  
e-mail: scythe@scytheconnection.com

---

## 簡単な主旨のあらまし

世界中広範囲の、多くの国々で何世紀にもわたって実用性が証明されてきたサイは、重要な道具として今も残っています。

多様な生物と自然環境から受ける健康、自然からの恵みというこの古くからある効率のよい例がより大きく注目されているので、エネルギー消費問題を抱えるうえで、実用性のテクノロジーがより要求されています。ヨーロッパでは現在、多少サイの復活が浮上しています。

このシンポジウムのひとつの前提として、京都議定書、生物多様性条約で最近協定したゴールに到達するため、サイは重要な可能性があります。特に数千ヘクタールの草に覆われた土地、都会（芝生、公園、遊技場）と田舎（道路脇、自然保護地域、自然散策路等）双方が汚染のないように草を刈ることができ、将来的に長く維持できます。

サイ使用の経済的地域の重要性は生物の多様性保存に、大きく貢献することができます。加えて、個人の健康（特筆すべきは、草刈りの動きは特別に太極拳に似たエアロビクスのひとつ）そして都会の近隣と田舎のレクリエーション地域では、大気汚染水準と騒音の削減のために一役買います。これらをまとめた結果として、国民健康保険のコスト減、ほかにより高い国民幸福指数の向上があげられます。

私たちは草地を保有するすべてのカナダ人に、サイで草刈りをするよう勧めるわけではありません。しかしながら教育を通して（それにおそらく政府の奨励金！）私たちは個人の私有地を「緑の共有地」として集合的に管理していくために、創造的なプログラムを実行できます。このイベントでは他の国々の環境に優しい草地整備の実例、カナダのために実行できる計画などが紹介されます。

この大陸初のシンポジウムの主旨は、サイの可能性を知るための前例のない機会です